



令和3年度岩手大学半導体アカデミー開講 電気電子科と電子機械科が聴講

6月21日(月) 令和3年度岩手大学半導体アカデミー「半導体が支える未来社会」と題して岩手大学特任教授 梅木 和博氏から講話をいただきました。本校では、電気電子科1、2年生と電子機械科1、3年生が聴講しました。

講話の導入では、アクティブラーニングで生徒の皆さんの思考を開拓し、世界と日本の半導体産業について触れ、これからの学びが必要とされることをお示ししていただき、後半には県内企業の紹介をしていただきました。

気になったお話を書き出してみました。

- ・「情報収集力」・「情報処理力」・「情報編集力」の中で情報編集力が学生に求められている。
- ・「情報編集力」は、思考力・判断力・表現力を示し、この力が**未来の日本を支えていく**。
- ・戦後の日本は、欧米モデルをキャッチアップすれば良かった。いわゆる正解主義であった。しかし、**未来社会は「正解を求める考え方」に固執できない。学校も変わらなければならない**。
- ・野球と同じく、これからの社会人は守れるポジションが多いほど良い。二刀流、三等流
- ・大学生の就活でわかったこと「大学受験までは、みんなと一緒に「成績のよい子」が求められた。就職の面接では、「貴方と他人との違いは何か」「貴方にしか出来ないことは何か」と質問を受けた。」当然ながら、一定以上の学力水準を前提として面接試験を受けている。
- ・個人に取っての「意味」が重視される時代
- ・半導体技術がグーグル元年を実現させた。日本は成熟期を迎えた。今はもう正解がたった一つなんていう問題はほとんどなくなった。

梅木先生は、これから求められる学生の資質や考え方の開発など、日本を支える**学生の将来を見据えて**、これからの時代を生きていくために考えて欲しいことを皆さんに話してくれました。産業構造が大きく変わる時代を迎える中で**必要な学び**について、生徒も教職員も真剣に考えて行かなければならないと思いました。

後半は、岩手の半導体産業について紹介があり、3年生は真剣にお話を聞いていました。

～ いま関工がおもしろい ～

